

稿 平成22年度決算審査

寄 依然として厳しい財政運営が続く

川崎市議会議員 山崎なおふみ

将来にツケを回さない財政運営を

9月5日(月)～10月6日(木)の期間にて平成23年川崎市議会第四回定例会が開催され、主に昨年度決算についての質疑が行なわれました。

した世界同時株安や欧州ソブリン危機など昨今の世界的な金融危機は国が抱える過剰な債務負担がその引き金になっています。わが国においても成長戦略や財政再建への道筋が見えない中、

本市におけるこれまでの教訓を踏まえ、将来へのツケを回さない為にも、過去の選択に縛られることなく着実に財政の健全化に取り組みでいかねばなりません。質疑の内容については市のホームページでも録画が公開されていますが、今回

は市債残高の推移とその将来負担の観点から縮減に向けた取り組み等について代表質問を致しました。

昨年度一般会計における市債は、その発行額が市債の元利償還を主な目的とする公債費よりも下回ったものの、市債残高が前年度比増となったことは利払い負担が押し上げた要因が大きく、その利払いは156億円にも上ります。

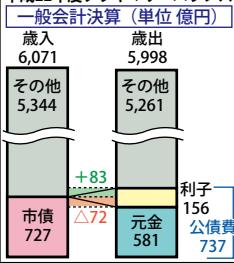
72億円のマイナスとなることを明らかにするとともに、過去に財源対策として行なってきた減債基金への積立繰延は平成23年度の償還により解消される見込みが示されました。まずは、プライマリーバランスを黒字化した上で着実に債務を削減していく必要があります。



山崎なおふみ プロフィール

- 昭和48年生まれ。37歳
- 明治大学理工学部卒
- 妻と2人の子どもの4人暮らし
- 趣味は俳句とクラシック音楽鑑賞
- 13年連続フルマラソン完走中

平成22年度プライマリーバランス



ホームページ HPで市政ブログ毎日更新中!

山崎なおふみ

検索



twitter
「つぶやき」でも情報配信中!
タイムリーな議員の
声をお届け